

科目名 Course Name	教職実践演習(幼稚園教諭二種) Practical Seminar for Teaching Profession				ナンバリング No.	K4-009	
年次	2年	期別	後期	単位数	2	授業形態	演習
担当者氏名	(主)秋山 真奈美、久保田 隆範、田村 田、加藤 茉奈美、松崎 勇人						
連絡先(質問等)	講義棟あるいは本館の2・3階に在るそれぞれの担当者の研究室を訪ねるか、C-Learning あるいはメールで連絡する。						
必修/選択	選択(保育士養成課程・幼稚園教諭養成課程必修)						
関連 DP	DP3,DP5						
授業の概要と到達目標	<p>ポートフォリオ(学習の履歴・実習記録・実習評価表等)に基づく反省と考察の上に立って、(1)学習指導力(子どものレディネス理解力、授業設計力等)、(2)幼児指導力(子どもの発達理解力、学級での生活指導力等)、(3)調整力(園・家庭・地域社会および関係諸機関との連携・協力調整)、(4)学級経営力(行事運営力を含む)の4つの事項を主たる授業内容とし、教職の理解とその実践力の習得を図る。</p> <p>従って到達目標としては、</p> <p>①誠実、公平に幼児に接し、幼児とともに学び、成長しようとする態度を身につけることができるようにする。</p> <p>②幼児教育現場における社会人としての望ましい態度を習得することができるようにする。</p> <p>③幼児の発達や心身の状態に応じた、生きる力を育む学級経営の基礎を習得することができるようにする。</p> <p>④幼児教育・保育の目的、内容、方法についての基本的事項を確認し、学習指導並びに生活支援に生かすことができるようにする。</p>						
授業の方法	講義、講演、模擬授業、実技指導、ディスカッション、事例研究、フィールドワーク等を取り入れたアクティヴ・ラーニングベースの授業形態により、総合的な教育実践力の習得を図る。						
学習成果	L01						
	L02	幼児の特性や発達過程を十分に理解し、幼児への総合的な指導、保護者への助言、学級経営、集団指導等に応用・統合し、「生きる力」の基礎を育むことができる。					
	L03	①教育・保育に対する健全な使命感、責任感、教育的愛情を以て“支えあい、学び合う共同体”を形成することができる。 ②設定した課題に対し、他者と協力関係を築きながら対処することができる。					
	L04						
課題に対するフィードバック	研究発表に対するコメントは、その場で複数の教員、及び聴講学友から与えられる。計8本に及ぶレポート課題は出題教員より返却される。						
教科書/参考図書	教科書としては既購入の「幼稚園教育要領」(文部科学省)、「保育所保育指針」(厚生労働省)、「幼稚園教育要領解説書」(文部科学省)、「保育所保育指針解説書」(厚生労働省)、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(内閣府他)を用いる。その他、各教員からの指定参考書は、ガイドンスおよび講話内で紹介する。						
履修上の留意点やルール等	保育者を目指す者として、目的意識・課題意識を明確にして授業に臨むこと。従って、私語・居眠り・授業に無関係の行動・不参加は「授業参加態度」において減点の対象とする。私語を慎み、真剣に受講すること。事前・事後学習時間の目安は各回180分相当とする。						
担当教員の実務経験	<p>●久保田隆範:実務経験(職種:プレイリーダー・研修講師 職歴:通算6年) 遊びを通じた実践的発達支援の際に有益な、国内外の事例紹介や指導法の教授を、第9回講義及び研究指導の際に行う。</p> <p>●田村 田:実務経験(職種:美術教室、陶芸教室 職歴:通算26年) 美術教室や幼稚園、保育園等での実践事例を折り込みながら第10回講義を行うと共に、学生の研究指導に於いてもこれらの知見を活用する。</p> <p>●加藤茉奈美:実務経験(職種:障がい者支援施設 生活支援員 職歴13年) 施設実務での経験を障がい児者の支援について説明する時に活かす。</p> <p>●なお、招聘する外部講師は、実務経験の豊富な人物のみとする。</p>						

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度	授業で使用する資料・教材の準備に勤しみ、ディスカッション場面では他者の意見を尊重しつつ自分の考えを述べ、模擬保育や研究発表聴講の際には的確な質問ができること。			20	
レポート/作品	それぞれの課題(履修カルテを含む)の要件を満たし、保育者としての視点から、実践を意識した記述がなされていること。		40		
発表	模擬保育や研究発表においては明確かつ有益なテーマを設定し、それに見合う検証を行い、適切な資料を用意・配布すること。聴講者にわかりやすい、構成と発話が意識されていること。十分に準備し、教員・学友からの質問にも的確に答えてもらいたい。			20	
小テスト					
試験					
その他	模擬保育や研究発表の実行後、教員や学友から受けた助言を参考にし、第 15 回に研究概要を提出(ただし、第 15 回の発表者は指定日までに担当者に提出)する。参考資料には電子媒体だけでなく、必ず書籍を 1 冊以上含むこと。多角的な考察が期待される。			20	
合計			40	60	

回数		授業計画
1	授業内容	保育現場における実践と検証（秋山、田村、久保田、加藤）、ポートフォリオとアクティヴ・ラーニングの重要性(松崎)
	事前・事後学習	事前学習はとりあえず必要無いが、事後学習としてリアクションペーパーを課す。
2	授業内容	ガイダンス・概要説明:履修カルテの書き方、実践研究の進め方、レポートのテーマ及び提出期限等の説明（秋山、加藤）
	事前・事後学習	事後学習としてポートフォリオの具現化である履修カルテに取り掛かり、また実践研究のテーマを次週までに複数考案し、実践可能かどうか下調べをする。
3	授業内容	研究発表、模擬保育の企画と活動について(秋山、田村、久保田、加藤)
	事前・事後学習	実践研究の目的・方法を熟考し、研究計画を立案する。教員から承認され次第、実践研究を進める。
4	授業内容	外部講師による講演:指導計画、学級経営案の作成について(認定こども園長)＊レポート提出(久保田、田村)
	事前・事後学習	自己の研究を進めるのに平行して、今回講話で課されたレポートを作成する。
5	授業内容	外部講師による講演:現代社会の教育諸問題と教職の課題(佐野日本大学中等教育学校長)＊レポート提出(秋山、久保田)
	事前・事後学習	自己の研究を進めるのに平行して、今回講話で課されたレポートを作成する。
6	授業内容	外部講師による講演:児童生徒理解について(佐野市教育委員)＊レポート提出(田村、加藤)
	事前・事後学習	自己の研究を進めるのに平行して、今回講話で課されたレポートを作成する。
7	授業内容	総合的指導の立場からの模擬保育・実践研究に向けた教材研究・資料作成（秋山、田村、久保田、加藤）
	事前・事後学習	自己の研究の発表・配付資料準備を進める。
8	授業内容	家庭・地域・専門機関との連携 ＊レポート提出(加藤)
	事前・事後学習	自己の研究を進めるのに平行して、今回講話で課されたレポートを作成する。
9	授業内容	遊びを通じた実践的発達支援 ＊レポート提出(久保田)
	事前・事後学習	自己の研究を進めるのに平行して、今回講話で課されたレポートを作成する。
10	授業内容	幼児教育現場における造形表現指導について ＊レポート提出(田村)
	事前・事後学習	自己の研究を進めるのに平行して、今回講話で課されたレポートを作成する。
11	授業内容	幼児に対する理解を踏まえた教育実践指導と評価活動、現場におけるPDCA ＊レポート提出（秋山）
	事前・事後学習	自己の研究を進めるのに平行して、今回講話で課されたレポートを作成する。
12	授業内容	課題設定研究発表・模擬保育Ⅰ・・・実演指導【まとめ】 学習指導力の確認、幼児の総理解力、保育内容デザイン力等。（秋山、田村、久保田、加藤）
	事前・事後学習	発表を終了した者は研究概要の執筆に取り掛かる。次週以降に発表を控えている者は引き続き自己の研究の発表・配付資料準備を進める。また、全員が今回発表の「発表聴講報告書」を作成する。
13	授業内容	課題設定研究発表・模擬保育Ⅱ・・・実演指導【まとめ】 学習指導力の確認、幼児の総理解力、保育内容デザイン力等。（秋山、田村、久保田、加藤）
	事前・事後学習	発表を終了した者は研究概要の執筆に取り掛かる。次週以降に発表を控えている者は引き続き自己の研究の発表・配付資料準備を進める。また、全員が今回発表の「発表聴講報告書」を作成する。
14	授業内容	課題設定研究発表・模擬保育Ⅲ・・・実演指導【まとめ】 学習指導力の確認、幼児の総理解力、保育内容デザイン力等。（秋山、田村、久保田、加藤）
	事前・事後学習	発表を終了した者は研究概要の執筆に取り掛かる。次週以降に発表を控えている者は引き続き自己の研究の発表・配付資料準備を進める。また、全員が今回発表の「発表聴講報告書」を作成する。
15	授業内容	課題設定研究発表・模擬保育Ⅳ・・・実演指導【まとめ】 学習指導力の確認、幼児の

		総理解力、保育内容デザイン力等。第 14 回までの研究概要提出。ただし今回発表者は、指定日までに担当者のところに提出すること。(秋山、久保田、田村、加藤)
	事前・事後学習	発表を終了した者は研究概要の執筆に取り掛かる。また、全員が今回発表の「発表聴講報告書」を作成する。